

原発がこわい女たちの会
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2013年04月 | トップ | 2013年06月 》

検索

2013年05月27日(月)

 検索

大飯3・4号運転停止行政訴訟にて意見陳述

アーカイブ

5月22日、大飯3・4号運転停止行政訴訟の第5回法廷が、大阪地裁にて開かれ、原告を代表して福井県小浜市の中嶋哲演さんと「女たちの会」松浦雅代が意見陳述をしました。二人とも長年にわたり、小浜及び和歌山における原発の新規立地阻止を闘い、大飯原発に反対する運動を続けてきた立場から、裁判所に思いを訴えました。

国を相手とする大飯3・4号運転停止行政訴訟は、2012年6月に福井県、岐阜県と関西2府4県の134名を原告として、大阪地裁に提訴。その趣旨は、大飯3号機、4号機では、連動型地震で揺れが大きくなると制御棒の安全な炉心挿入が難しいこと、及び、敷地には破碎帯が走っておりこの破碎帯は活断層の疑いが濃厚なことからみても、再稼動・運転は許されるものではない。このような技術基準に適合していない大飯3・4号機の停止を命じるよう、主務大臣である経済産業大臣に求めています。

※ 関西電力を相手どった「大飯原発3・4号運転差止仮処分裁判」では、4月16日に下された判決は、福島事故の教訓から何も学ばず、破碎帯は活断層ではないと決めつけるなど関電の主張「大飯は安全」をそのまま司法が認めるという不当なもので、原告は即時抗告しています。

詳しくは「美浜の会」(<http://www.jca.apc.org/mihama/>) まで

以下、松浦雅代の陳述書です。

大阪地方裁判所 御中

陳述書

2013年5月22日

原告 松浦雅代

私は和歌山市に生まれ育ち、現在も住んでいます。1979年アメリカのスリーマイル島の原発事故で和歌山県が原発候補地だという事を知り、原子力の事を学び初めました。スリーマイル島の事故は炉心溶融という重大事故でした。事故から3日後、州知事が半径5マイル(約8km)内の妊婦や幼児の避難を決定しました。この時、初めて事故が起これば大変な事になる事を知りました。一年後まだ原子炉の中がどのようにになっているか分からないのに日本の国は安全宣言を出しました。

スリーマイル事故の7年後にチェルノブイリの事故が起きました。核暴走事故でした。ゴルバチョフ書記長の「我々は核戦争のあとを経験してしまった」と述べている映像が映し出され、私は衝撃を受けました。チェルノブイリ原発から30kmが強制避難地域になりました。詳細が分からないうちに、国は原子炉の形が違うから日本の原発は安全だと直ぐさま安全宣言を出しました。和歌山では推進の動きが活発になりました。チェルノブイリから8000km離れた日本にも放射能が飛んできました。地球規模の放射能汚染でした。私たちは環境に放射性物質がばらまかれるとどうする事も出来ないし、人間の手に負えない事を知ることになりました。ドイツの大学では生殖器が被ばくするから芝生に座らないようにと学長が注意。フィンランドの女性1000人が子どもを産まないデモを繰り広げました。ヨーロッパからは原発計画の見直しの情報が次々入ってきました。しかし日本では国と電力会社は原発は安全だと言い続けました。

この時、私は何としても和歌山の原発建設を止めたいと思いました。私一人ではありませんでした。同じ思いのお母さんたちがたくさんいました。

和歌山県の原発立地計画は1967年から4町5か所になりました。しかし現地の人たちは原発の危険性を早くから見抜いていました。「青い空・青い海・青い山を子どもたちに残そう」と故郷を守るために反対を繰り広げました。1968年日高郡の14漁協は県知事への陳情で「県当局は如何に如何様にこの危険物を誘致に、誘導するか。世界最大なる危険物の取扱により人類の抹殺、且つ沿岸漁民を餓死に導くがごときこと、これが施策か(略)かかる世界人類最大の危険物の誘致に対して漁民の真意をよく御諒察頂き、………」とこれは今から45年前のものです。日置川町では1988年、今から25年前「町を荒廃させる原発

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

より過疎の方を選びたい。それが子孫に残してやれる唯一の道」と言った町長候補が勝ちました。和歌山の反対してきた人たちが何を守ってきたのかを知らしめるものです。現在、和歌山県には原発は1基もありません。

2011年3月11日、現実には日本でレベル7の原発事故が起こってしまいました。メルトダウンが起きていたにも関わらず、直ぐに国民に知らせませんでした。ただ一つの予防策ヨウ素剤をほとんどの子どもたちに飲ませませんでした。放射性ヨウ素を子どもたちは体内に取り込んでしまいました。現在日本の法律の基準では当然放射性管理区域になるべきところに子どもが住んでいます。この現実を私たちは直視しなければなりません。

好むと好まざるに関わらず、私たち関西の人間も福島の事故で被ばくしてしまいました。これからも被ばくは続きます。放射性物質は見えない上に、においも色もついていません、痛くもかゆくもありません。人間の五感には感じる事が出来ません。が環境中にばらまかれた放射能に被ばくし必ず影響を受けます。特に子どもたちについては大人の何倍もの影響があります。半減期が約30年のセシウムは、子どもたちのこれからの人生で影響は避けられません。

幼い子供を抱えて福島や関東から和歌山にも避難してきたおおかあさんたちは、子どもに被ばくさせてしまった親としての苦しさや家族離れ離れによる子どもたちの不安定さに苦しんでいました。「こわくて次の子どもが産めない」「安心して子どもを育てたい」というお母さんの声は切実です。

なんとでも安心して子どもを生み育てられる環境を未来の子どもたちに引き継がねばなりません。まず地殻変動の激しい日本で、原発を稼働させない事。環境汚染と「核のごみ」をこれ以上増やさない事。いま唯一動いている大飯3・4号を未来の子どもたちのために、速やかに停止させて下さる事を求めます。

.....

■ 映画会のお知らせ

「ベアテ・シロタ・ゴードンさんは22歳の時に、日本女性のためにすばらしい大仕事をしてくれた女性だ。そして贈りものとは、彼女が草案を書いた日本国憲法第24条のことである…中略…私たちは今の憲法を「押しつけ」などではなく、すばらしい「贈りもの」として、その精神を活かし、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法のある社会にしてきたのだ。この映画をみて、多くの人々がその想いを共有して下さることを切望している」(映画制作委員会代表 赤松良子 みる会パンフより引用)
※ ベアテさんが草案したのは憲法第14条「法の下での平等」、第24条「家庭生活における両性の平等」

映画『ベアテの贈りもの／The Gift from Beate』
2004年製作／92分／監督・脚本：藤原智子
ベアテ・シロタ・ゴードンさんの講演DVD
2008年「9条世界会議」より抜粋／15分

日時 2013年6月4日(火) 3回上映
11:00～ / 14:00～ / 18:30～

会場 和歌山市あいあいセンター 6階ホール
和歌山市小人町29番地

参加協力券
大人 1000円 / 学生 500円 / 高校生以下 無料

お問い合わせ先: ベアテの贈りものをみる会
TEL&FAX.073-453-6046(中村) / TEL.090-2119-9494(国重) / kayon.bluepools@gmail.com(ナカサト)

[2013-05-27 | 記事へ | コメント\(0\) |](#)

2013年05月13日(月)

福島からの便り

福島で避難生活を送っておられる橘柳子さんから寄稿いただきました。橘さんは、昨年女たちの会主催の講演会にお招きし、福島原発事故の実情を被災当事者の言葉でお聴きました(ブログ10月31日)。被災者の置かれた「差別と分断」が基調のテーマだったと思います。また先月は橘さんの下をこちらの会員さんが訪問し交流してきました(ブログ5月4日)。原発事故は、汚染水漏れでもわかるように収束とはほど遠く、そして被災者の方々は、あらゆる面で苦渋の生活を強いられました。先の見えない状態が続いています。

原発事故と今の福島

橘 柳子

あのいまわしい福島原発事故から二年経過した今、私たち避難者と福島は、何が変わったのだろうか。少なくとも仮設住宅で生活している一人として、日々の暮しに考えめぐらせても、何の変化も感じないのである。毎日を自分のスケジュールを見い出して、単に生命(いのち)をつないでいる

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
コメントありがとう by sora (12/05)
突然すみません。東京 by 里美(11/22)
10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
starさんコメントあり by sora (09/14)
このブログを読むまで by star(09/13)
こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
現在稼働している大飯 by star(04/09)
廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2013年05月 >						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13 琵琶湖集会(11/15)
汐見文隆先生、ありがとうございます(11/08)
原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
老朽原発・美浜3号機は廃炉に！ パブコメを出そう(08/28)
ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

だけのように思う。日々の生活は単調である。心おどるような意欲をもって組み立てることができるものを持っている人はどのくらいいるのだろう。意欲といわないまでも、心から楽しむことができる気持ちをとりもどしたといった方がいいだろうか。

単調はいいのかもしれないが、長年住みなれた何げない日常と古くさい文化と歴史をいといながらも、めぐる季節の祭りごとに加わり、集(つど)う食事と会話、愛(いと)をして、汗みずたらした田や畑や庭は、今はない。すべて仮(かり)がつく状況に身をおいて一時(いつとき)、自分が置かれている環境の中で、喜びを見い出せるものを求めているのです。人間の精神がダメになってしまう恐怖をもちます。人々は除染のことばのむなしさも解(と)けてきています。でも語りません。賠償は精神面も含めて、すべて金額に換算されます。古くても大事にしてきた品物も、財物という言葉で基準をもうけられ算出されます。これが本物の人間の幸せだろうか。避難者と福島を置きざりにして、誰かが言う「美しい日本」の姿とは、これか。

人権も人道もどこかに置いた復興という名のギマンを、のちの歴史家はどう語るのだろう。沖縄の人々の反対を押し切り、原発の避難住民と福島を置きざりにして、何が主権回復の日なのでしょう。我々も又、国から放置され続ける県民となるのでしょうか。

自然界に目をやれば、二年前より多く見かける虫や鳥が自分たちのすみ家(か)にもどって来ているように思える。四季の花々も元気にみえる。「ミミズとかえるからも放射能が出た・・・」と山奥の湯屋での地元的女性たちの会話でも、それらすべてのものが放射能とどんな闘い(たたか)いをしていけるかは見えない。語れない。人間が手をかけなければ永遠になぞとなる。海辺のガレキはそのまま、人の居ない町は静かにたたずんでいる。

一方で、2013年4月から我が浪江町は区域見なおしとやらで、①出入り禁止 ②許可による一時帰宅 ③許可証持参で自由に出入り可能な三区に分かれた。しかし往復5時間もかけ、ねずみの糞の住み家を見るのは悲しい。そしてくやしきことは、区域見直しも国から示されたものを県と各町村が受け入れるというシステムだ。そこに町民の住民の意志は何ら介在(かいざい)されずである。事故をおこした当事者が、勝手に決めて「さあ、いいよ」はないでしょう。と思うのである。

国民の真の豊かさ(とよかさ)も考えるいい機会であるはずだ。物や金だけではないものを求めて、これから生きる子どもたちのために残すべきものは「何か」を考えれば、おのずと解(と)くこと。放射能を気にすることのない本物の自然あふれた国土の保全(ほくぜん)だと思う。核種(かくしゅ)によって半減期(はんげんき)がことなるのに、セシウムしかと上げないのももんだいであるが、ともかく、核で動く原発とはご一緒(いっしょ)できません。苦しい息(いき)の下(した)からでも言い残(のこ)したいことばです。

それにしても国も東電も事故の責任はまだ認(と)めてないのが現実である。

2013. 4. 26 記

■ 講演会のお知らせ

福島県飯館村の酪農家 長谷川健一さんの講演会が開催されます。

日時 2013年5月25日(土)

18:30 開場
19:00 長谷川健一さん講演会
20:30 質疑応答
21:00 終了

場所 中央コミュニティセンター3階多目的ホール
和歌山市三沢町1-2
073-402-2678

参加費 500円(高校生以下無料)
※長谷川さんの資料代、交通費に充てさせていただきます。
お問い合わせ 080-2449-5300(富士原)
ninnico-wakayama@docomo.ne.jp
主催 にんにこ被災者支援ネットワーク・和歌山
http://ninnico.jp/

チラシ1 <http://web2.nazca.co.jp/0810512753/hasegawa1.pdf>
チラシ2 <http://web2.nazca.co.jp/0810512753/hasegawa2.pdf>

(チラシ2から引用)

原発に「ふるさと」を奪われてー福島県飯館村は今ー
酪農家 長谷川健一さんをお迎えして

「今、世界でも類をみないともない原発事故がこのせまい日本の福島で起きています。私達が味わった苦しみ、悲しみをぜひ全国の皆さんに知ってほしい。そしてこの大事故を風化させないでほしい」 長谷川健一

3月11日に東日本を襲った地震、津波、そして未だ収束のメドがたたない原発災害。福島第一原発から40kmの飯館村は、村全体が計画的避難区域となりました。

長年、飯館村で酪農を営んでいた長谷川さんは、酪農を「休止する」という苦渋(くじふ)の決断を下しました。出荷制限の為、原乳をしばっては捨てざるをえない日々。我が子同然に育ててきた牛たちに十分な餌(え)を与える事もできず、次第にやせ細り、

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者

[ログイン](#)

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

結局別れなければならなかったという現実。

事故後に自ら撮り続けた村の映像をまじえながら、飯館村の現状や長谷川さんの思いを語っていただきます。

長谷川さんは2011年7月5日を皮切りに、これまでも全国各地でたくさんの講演活動を行ってこられています。その原動力となっているのは友人であった相馬市の酪農家が「原発さえなければ」とベニヤ板に書き残し「自死」したことでした。命の尊さ、大切さ。現在、同じ日本の中で起こっている真実をぜひ多くの方々に知っていただき、わたしたちは何をしていくか？わたしたちはどう生きるのか？を考え繋がっていける場となればと思います。

たくさんの方のご来場をおまちしております。

長谷川健一さんプロフィール

1953年、福島県飯館村生まれ。酪農家として牛や猪を飼い暮らしてきた。福島第一原発事故による放射能汚染を知り、いち早く区長を務める。飯館村前田地区の住民集会を開いて現状を説明し、被曝を避けるための対処法を知らせた。以後、飯館村の映像を記録し続け、日本はもとより海外にも出かけて飯館村で起きていることを知らせる活動を展開している。

著書

『原発に「ふるさと」を奪われてー福島県飯館村 酪農家のさけび』

2013-05-13 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2013年05月04日(土)

原発がこわい女たちの会ニュース84号発行

【 CONTENTS 】

未来の子どもたちの為に原発を稼働させてはいけません！

福島県を訪れて

原発事故と動物たち

3月11日の記憶(1) (忘れない為に)

女たちの会結成26年のつどい報告

女たちの会のブログが1歳になりました

本と講演会の紹介

後記

5月2日に発行したニュースの内容は上記の通りですが、このうち、既にブログに載せたものを除いて、ここにご紹介します。

■未来の子どもたちの為に原発を稼働させてはいけません！

東京電力福島第一原発事故後、国は「4閣僚の政治判断」で「安全性は確保されている」として、国内で唯一、関西電力の大飯原発3号4号を再稼働させた。それに対して福島事故を繰り返してはならないと原告262名の強い思いで関西電力を相手どった「大飯原発3・4号運転差し止め仮処分裁判」を始めた。4月16日、関西電力の主張「大飯は安全」を司法が追認した判決が出された。



↑ 安全神話の復活・4月16日大阪地裁前

4月26日大飯原発仮処分裁判の原告は即時抗告しました。

■福島県を訪れて(2013年4月10日～12日)

有田川町 古田伊公子

2012年10月27日～28日に和歌山に話しに来て頂いた橘 柳子さんを福島県本宮市に訪ねました。



桜は例年の2週間遅れで満開。その下のモニタリングポストは0.4 μ シーベルト/h。橘さんの仮の住居脇には赤松林の丘があり、思わず「マツケ！」と叫んでしまう。「そう この丘はきのこの宝庫よ。でも今はね」この仮設住宅の一角にもモニタリングポスト、赤い数字が刻々と変わる。

2日目は喜多方のお百姓さんの案内で飯館村を通過して南相馬市の小高区(東北電力がついに原発建設予定を「住民の方々の心情を考えると」と撤退表明したところ)で試験田としてでも田畑を耕し続けると、避難仮設住宅の相馬市から1時間かけて通って農業をされている方のお宅を訪れた。(小高は日中のみ立ち入ることが出来る)

本家の玄関の前には丹精されたお庭、奥さまが養蚕をしていた蚕部屋を若夫婦の家に新築されたとのことで2軒続きの立派なお家。人影の全く見えない飯館村では出なかった涙が、本来なら、こうしてあるべき姿が理不尽にもはぎとられた家に人がいる様に、急にあふれ出てしまった。

このご夫婦の案内で小高の原発予定地だった海辺と、浪江町の請戸港に。浪江町の入口には警官がいて事情を聞かれ許可証を渡されて入る。午後4時ギリギリに出た私達の後ろでゲートが閉められる。

ここまで津波が来たという国道6号線から海辺まで、見渡す限り荒涼とした湿原状態になっていて、ひしゃげた車やコンクリートの塊が点々と。6号線を超えたところにも小舟数隻見かける。

請戸の港には船はなく魚のせりをしていたであろう場所だけがそのかたちを遺し、又請戸小学校の建物もあって、先生たちの誘導で全員近くに見える山に避難。橘さんは「請戸小だけは1人も犠牲者出なかったんだよ」その2つ位建物が残っているのみで、漁師町で家がぎっしり建っていたと話されても、私の乏しい想像力ではイメージが湧かず、どのように感じたら良いのか感情が混乱してしまっていて、今も尚ボア然でしかない。

広～い広～い、ただただ荒地と化したはるか向こうに中世ヨーロッパの城のような森が見える「あれが原発だよ」

ただ通り過ぎるのみ(この道を通るしか二本松から小高や浪江に行けない)の飯館村は福島では珍しく平地がなく米や野菜が作れず、今の村長さんが苦心の末、牛を飼い、花を育てることを奨励して村の経済を立て直し軌道に乗った矢先の原発事故。津波の影響はなく田舎らしい大きな家が広々とした敷地と共に点在。所々に飯館牛の看板やレストランが建っている。休日には家族や友人たちで、おいしいお肉を食べながらドライブにハイキングにというところだったのだろうが、切なく淋しい風景でしか今はない。

小高のお宅で昼食を御馳走になる。(店など全くなし)

「ここで0.3位だ。年間積算量1 μ シーベルトは0.12 μ シーベルト/hだから」なかなか覚えられなかった数字がカキーンと頭に入ってしまった。現地現物の苦渋の言魂の力はすごい！

化学物質過敏症で、合成洗剤のみならず、香料入りの普通の石鹸でもヤバイほどの私が0.3 μ シーベルトでも0.4 μ シーベルトでも全くな～んにも感じず不都合は一切なかった。毎日毎日気にして暮らす事を拒否したい人々にとっては平気になってしまうのは当然だろうな、と思う。

でも私の友は60歳になって白血病発症。「私、広島出身やろ母は広島で被爆しているしもしかして、と誤ってしまうヨ」重い証言である。

原子力をこわいながら許してきてしまった大人たちには、次世代を担ってくれる子どもたちを、何としても守らねばならぬ義務があるんやろなあ。一人が出来ることははしているけど何か出来ることはないか、とアンテナは張りつづけていこうと思っています。

■3月11日の記憶(1) (忘れない為に)

松浦雅代

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震が起きた時、私は青岸にごみを捨てに行った帰りで車の中に居た。夫にお兄さんから電話が掛かっていたが大きな地震だと言って切ったと聞いたので、帰宅してパソコンを開けると、地震情報は東北地方で震度7だった。遠いから心配せずに犬の散歩に行った。海岸を埋め立てた河西公園で散歩が終わろうとした時、津波による避難勧告によりこの公園から退去して下さいの放送があった。通りがかりの人が「東北地方でえらいことになっている」と言った。

帰宅してテレビをつけた。多分NHKだったと思う。大きな船が港を越えて流されている。自家用車が駐車場から次々海に落下しているように見えた。大きな家が次々と津波によって押し流されていくようすを息をのむ思いで釘づけになってみている。

そして福島第一原発事故の情報が入って来た。

私は遠くからの原子炉建屋の次々と爆発している映像を見ながら「この日本で原発の事故が起きている。それも4基だと。気が遠くなる思いで聞いていた。そして日本で起きてるんだ、日本で起きているんだ」

と、何度も自分に言い聞かせている自分が居た。

当時、枝野官房長官が「ただちに人体に影響がない」を繰り返しながら、「念のための避難」と言って最初
は原発から5^{km}。その次が10^{km}→20^{km}と避難指示が出された。この時、私は政府は念のためには避難さ
せない、確かに避難させるだけの危険が起こっているのだと思った。

3月18日は熊取の京都大学原子炉実験所の安全ゼミが事故前から計画されていた。

私は参加申し込みを2月にしていた。チェルノブイリの石棺等の問題について、ウクライナから講師をお
呼びしていた。講師を先に和歌山的那智勝浦の温泉につれて行く話は今中さんからメールで知らされて
いた。それもキャンセルせざるを得なくなったと後日聞いた。

3月18日は京大の原子炉実験所のゼミは予定通り行われた。マスコミや専門家や市民でいっぱいだっ
た。(3月18日の安全ゼミのようすはユーチューブで流されている。)

事態はまだどうなるか分からない時だったので、懇親会も、みなさん興奮状態で、ごった返していた。広
島のSさんに「貴女は福島で被曝した人を引受けることが出来ますか」と面と向かって問われた。私は事
故の事で、頭の中が真っ白状態だったのに、突然言われて何も答えられなかった。が言葉だけは私の中
に残っていた。今やっと彼の言った意味が分かったような気がする。

事故の実態を縮小化し、被害を小さく見せようとしている人たちは連日テレビに顔をさらしながらもウソを
つき続けた。私はこのすざましい原子力村の住民たちに恐れおののきを覚えた。

環境中に放出された放射性物質を唯一予防出来るのはヨウ素剤を飲ますことだけだ。ほとんどの子ども
たちが放射性ヨウ素を取り込んでしまったのだ。チェルノブイリの事故を原子炉の形が日本と違うから日
本では事故は起きないと言って教訓にできなかったばかりか、出鱈目で無責任な人たちが多い原子力
の関係者については今まで常識ではあったが、実際事故が起こったのだ。私は悲しい怒りにさいなまれる
日々が続いている。

■ 本の紹介⇒是非あなたも読んで下さい。

「戦後史の正体」孫崎 享(まごさき うける)著

出版社・創元社1500円＋税

1945-2012間の日米関係を元外務省・国際情報局長が書かれています。戦後70年、知らなかった事がい
かに多いかが分かります。

黒船～始まった米国の政策・広島・長崎への原爆投下も本当の事を知らしめず原子力の平和利用で、
洗脳されてしまった私たちは、福島の事故後の今こそ、これまでの米国占領政策を知る機会だと思いま
す。

■ 講演会のお知らせ

風力発電は本当にエコなのか? 「風力発電の不都合な真実」

○日時6月2日(日)13:30~16:00

○場所 和歌山市勤労者総合センター4階(市役所西隣) ☎073-433-1800

○講師 武田恵世さん(歯科医師・日本生態学会・日本鳥学界・等)

○低周波音の問題については、汐見文隆さんがアドバイザーとして参加。

○参加費 300円

主催:風力発電の被害を考える会・わかやま

問合せ先☎090-9164-1017(貴志)

付記 * * * * *

4月26日はチェルノブイリ27年でした。今年28年目を迎えますがセシウムはまだ半分にもなっていま
せん。30年は人間の一生から考えると、とても長い。子どもたちにこの現実をどのように伝えられるのか。
福島原発事故から2年過ぎてこれからです。それぞれの持てる力でがんばりましょう。

女たちの会27年目を迎えました。

会費は年間一口1200円で、原発のことをもっと勉強したい、反対したい人はどなたでも入会いただけ
ます。もちろん「男たち」もOKです。

ブログのほうは開設2年目です。リアルタイムの情報発信はまだまだですが、会員外の方や遠方から和
歌山のことを見守っている方も待っていてくださるようで、励みになります。

※ ブログへのコメントや原発についてのご意見の原稿お寄せいただければ嬉しいです。

2013-05-04 | 記事へ | コメント(0)

RSS 2.0